



第5章 計画の目標

(1) 温室効果ガス排出量の削減目標

わが国は、2050年にカーボンニュートラルを達成することを宣言しています。2050年のわが国では、電気を作る際に排出される二酸化炭素はなくなる（または回収される）とされており、そのような社会の実現に向けて、わが国はさまざまな取組を率先して推進しています。

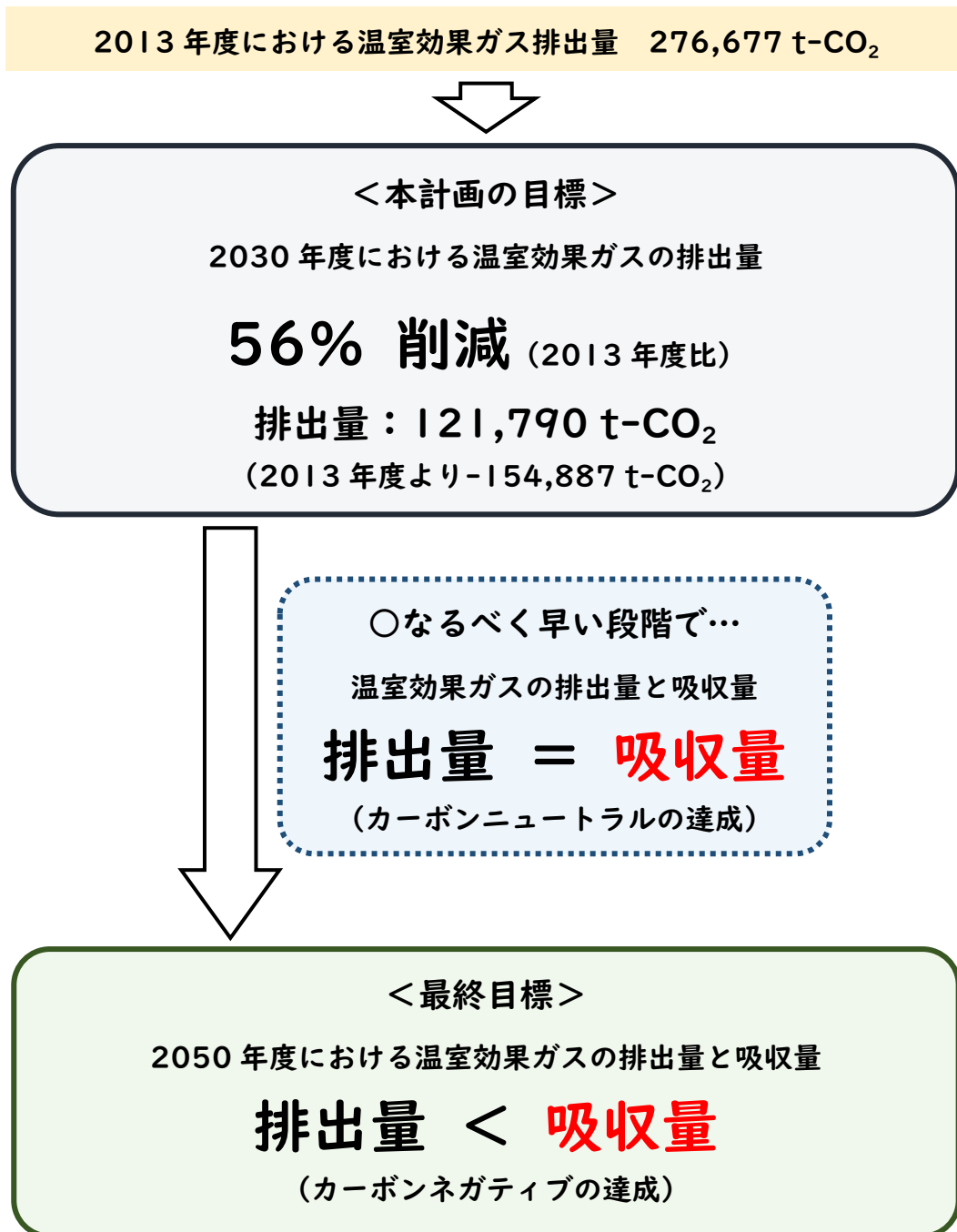
このような状況のもと、本市は2050年に向けてカーボンネガティブを目指していきます。そのためには、2050年までのできるだけ早い段階でカーボンニュートラルを達成するという、高い目標設定が必要不可欠となります。

■国東市カーボンネガティブ宣言(左)と環境大臣からのメッセージ(右)

<div style="text-align: center;">  <p>国東市カーボンネガティブ宣言 ～ 温室効果ガス排出実質マイナスをめざして ～</p> </div> <p>近年の世界各地で頻発する異常高温、大雨、大規模干ばつなどの異常気象が多発しています。日本国内においても過去に経験のないような激甚災害が頻発するようになっていきます。これは産業革命以降、人類が排出した温室効果ガスがもたらした地球温暖化によることが大きな原因と言われています。</p> <p>2015年に合意されたパリ協定では、「世界的な平均気温上昇を1.5℃に抑える努力をする」ということが世界全体の長期目標とされました。これを達成するためには、IPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）が2018年に公表した特別報告書によると「2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロとすることが必要」とされています。</p> <p>国東市では、豊かな自然と先人から受け継いだ文化を未来につないでいくため、市民、地域事業者をはじめとした多種多様な主体との連携により、まず、国が進めています二酸化炭素排出実質ゼロとなる「カーボンニュートラル」に向かい、そしてさらに二酸化炭素排出実質マイナスとなる「カーボンネガティブ」をめざしていくことをここに宣言いたします。</p> <p style="text-align: right;">2022年1月21日 国東市長 三河 明史</p>	<div style="text-align: center;">  <p>大分県国東市長 三河 明史 殿</p> </div> <p>貴市におかれましては、この度、地方公共団体として2050年の温室効果ガスの排出量実質ゼロ（ゼロカーボンシティ）を目指すことを表明されました。今回の貴市の表明をもちまして、ゼロカーボンシティは国内で525地方公共団体となりました。我が国としての2050年カーボンニュートラルの実現に向け、大変心強く感じております。</p> <p>近年、国内各地で大規模な災害が多発しているところですが、地球温暖化の進行に伴い、今後、気象災害の更なる頻発化・激甚化などが予測されております。こうした私たちの生存基盤を揺るがす「気候危機」とも言われている気候変動問題に対処するため、2050年カーボンニュートラルの実現を目指す必要があります。</p> <p>現在、政府としては、2050年カーボンニュートラルや2030年度46パーセント排出削減目標の達成に向け、再生可能エネルギーの最大限の導入などを掲げ、我が国の成長戦略の柱の一つとしていただいております。</p> <p>環境省としても、脱炭素社会、循環経済、分散型社会への3つの移行を推進し、今までの延長線上ではない、社会全体の行動変容を図ってまいります。</p> <p>2050年カーボンニュートラルの実現に向けては、今後30年間のうち、とりわけこの5年間、10年間が重要です。このため、地域脱炭素ロードマップに基づき、脱炭素先行地域づくりや、脱炭素の基盤となる重点対策の全国実施を進めていく必要があります。貴市及び他のゼロカーボンシティと連携しながら、地域脱炭素の更なる具体化・加速化を進めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">環境大臣 山口 壯</p>
---	--

そこで、本市の温室効果ガス排出量の削減目標は、国の地球温暖化対策計画よりも高い目標を設定することとします。国の目標は「2030年度までに46%削減」し、「2050年までにカーボンニュートラルを達成」ですが、本市は、「2030年度までに56%削減」し、なるべく早い段階でカーボンニュートラル達成した後、「2050年度までにカーボンネガティブを達成」することを目標として掲げることとします。

■温室効果ガス排出量の削減目標



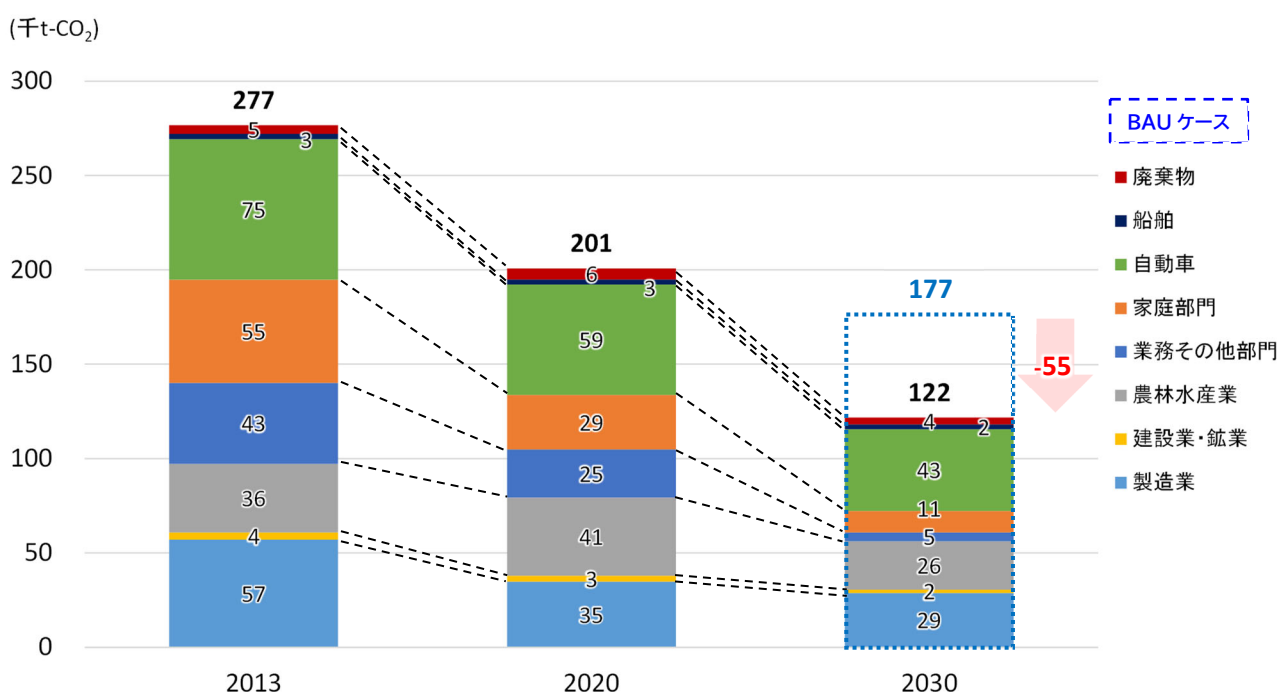
(2) 計画目標 (2030 年度) 達成におけた部門・分野別削減率の目安

本市は、2050 年度までのカーボンネガティブ達成を見据え、2030 年度に温室効果ガス排出量を基準年度比で 56%削減することを目指します。そのためには、地域のあらゆる場所・部門において、温室効果ガス排出量の削減のための取組を促進していく必要があります。

BAU ケースにおける将来推計では、2030 年度の排出量は 177 千 t-CO₂ です。目標を達成した場合の 2030 年度の温室効果ガス排出量は 122 千 t-CO₂ であるため、追加の対策で 55 千 t-CO₂ を削減する必要があります。

本市の各部門における温室効果ガス排出量削減の目安を示します。

■ 温室効果ガス排出量削減の目安



■部門別温室効果ガス排出量削減の目安

	温室効果ガス排出量・削減目安				【参考】 国の温対計画 の削減目標
	排出量 (t-CO ₂)			削減目安	
	2013 年度	2020 年度	2030 年度		
エネルギー起源 二酸化炭素	250,550	176,310	103,352	-59%	-45%
産業部門	76,282	61,144	41,890	-45%	-38%
業務その他部門	42,923	25,476	4,703	-89%	-51%
家庭部門	54,671	28,897	11,296	-79%	-66%
運輸部門	76,673	60,793	45,462	-41%	-35%
非エネルギー起源 二酸化炭素	4,025	5,306	3,181	-21%	-14%
廃棄物分野	4,025	5,306	3,181	-21%	-14%
メタン	16,174	13,139	10,601	-35%	-14%
燃料燃焼分野	48	33	29	-41%	-14%
農業分野	15,905	12,865	10,276	-35%	-14%
廃棄物分野	221	241	297	-34%	-14%
一酸化二窒素	5,929	6,004	4,655	-22%	-14%
燃料燃焼分野	570	381	322	-44%	-14%
農業分野	5,026	5,308	4,019	-20%	-14%
廃棄物分野	333	315	315	-5%	-14%
合計	276,677	200,759	121,790	-56%	-46.0%